

《インタビュー》

溶接の品質管理で活躍する IWE・WES 資格保有者

今春 IWE 取得「身の引き締まる思い」

日揮プランテック株式会社
QC マネジメント部 技師
太田 厚子さん



「国際溶接技術者 (IWE) 資格は 2011 年度に初めて受験し、モジュール II (材料・溶接性) が不合格となった。会社の支援を得て再度受験した 12 年度はプレッシャーもあったが今年 2 月、合格の一報を受けたときは正直ほっとした」とは、日揮プランテック株式会社 QC マネジメント部技師の太田厚子さん (32)。エンジニアリング会社の資機材調達担当として広範なメーカーと関係する中で「父親世代であるその道のプロを相手にすると経験不足とともにもっと中身をともなわなければならないと実感する。今回の資格取得は身の引き締まる思いが強く、顧客に信頼される仕事がしたい」と抱負を語る。

●集合研修は「有り難いチャンス」

2006 年 3 月創価大学大学院生物工学修了、同年 4 月入社以来、QC マネジメント部に在籍。現在は複数の新設プラントのプロジェクトで資機材調達、品質管理を担当する。「資機材を調達して出荷するところまでが仕事。現場に行くことはほとんどなく、品質管理に関しても現場の別の担当者をつける」

同社では日本溶接協会が認証する溶接管理技術者 (WES) を奨励資格に位置付ける。太田さんは 2008 年 3 月に 1 級、11 年 9 月には特別級に合格。2 級を含めると同部門に在籍する約 6 割が WES 資格を取得している。「WES 資格に関しては身近な資格という認識があった。IWE 資格も 10 人弱の上司が取得しており、特認コースも知っていた。海外の仕事も多く取得のメリットはあると上司から勧められ 11 年度に受験することになった」

国際溶接学会 (IIW) では、溶接に携わる要員の資格制度を全世界的に運用している。主な資格制度には ISO 14731「溶接管理—任務及び責任」の中で役割が規定される国際溶接管理技術者の資格制度がある。溶接管理技術者が修得すべき知識教育を履修して試験に合格すると、履修証明書

(ディプロマ) が終身資格として与えられる制度で、IIW 国際溶接管理技術者資格制度と呼び 1998 年から実施している。日本では IIW 資格制度の唯一の実施機関である IIW 資格日本認証機構 (J-ANB) が 2001 年から制度を運用し、現在までに約 2,500 人の技術者が資格 (ディプロマ) を取得している。

「特認コース」は J-ANB が実施する IIW 国際溶接管理技術者資格取得コースの一つで、2008 年に開始。本コースには IWE (International Welding Engineer)、IWT (International Welding Technologist) および IWS (International Welding Specialist) の 3 種類の資格があり、それぞれの資格に相当する知識を、前もって修得していることを証明することにより、長期間の教育を受講することなく、最終試験に進むことができるコースとなっている。

知識を修得していることの証明は、「IIW 履修ポイント」と呼ばれるポイント数が規定値以上であることを示さなければならない。そのポイントは大学などで履修した科目の単位や J-ANB が認めた講習会で取得することが可能。なお日本の場合、WES 資格取得に際して学習したことが、IIW 履修ポイントとして認定されており、資格証明だけでもポイントの規定値に相当する。

IIW 履修ポイントが規定値以上であること、学歴および業務経験年数の受験条件が満足していることが確認された後、プロジェクトワークと呼ばれる短期間の集合研修に進み、最終試験に合格すれば IIW 国際溶接管理技術者資格を取得することができる。

大学では有機化学を専攻した太田さんにとって、モジュール 2 の材料・溶接性は新たな領域だった。「材料が苦手な溶接に関しても特に身近なものではなかった。受験には相応の費用もかかる。しかし、1 回目は勉強不足で材料・溶接性が不合格となった。例えば他のモジュールの品質管理システムは、担当業務と関連づけることも可能だが、材料だけは覚えるしかない」と 2 回目の受験に向け暗記に努めた」

学生のころエンジニアリングは「全く知らない世界」であったが、大学の求人を通じて面会した先輩の影響が大きかった。

「その方は当社初の女性技術者であり、実際にあつて話をして私も同じ職場で仕事がしたいと感じた。また、海外での仕事の道が拓ける点にも魅力を感じた」

高校生から化学が好きだったが、小学生の頃には父親の仕事の関係で製鉄所を見学する機会があった。「振り返ればものづくりを見ることは好きだったのだと思う。就職の報告をしたとき父親は当然知っていて大きな会社だと話していた」

入社 8 年目を迎えた太田さんに「溶接管理」について話を向けると「自分が製造者でもなく溶接する立場でもないのが難しさを感じる」という。ただ、大きなプラントをつくる会社の一員として日々の業務に携わることは「興味深く面白い」と充実した表情を見せる。

現在は電力関係を中心に取り組む。「資機材調達の前に、まずは電気事業法をはじめ関係法規を勉強しなければならない。難しい法規がわかって初めて、顧客の立場になり、信頼される仕事につながるのだと思う。当社は従来、石油精製、化学、LNG が中心であり、発電関係に携われることはチャレンジングな状況と言える。関係法規に則したものをつくらないとプラントは稼働できない。正に目の前の課題と格闘しているところである」

これまでの業務では工場の立会検査に行く機会も多く「図面だけではない、ものづくりの勉強になった」。太田さんは IWE 資格を取得する過程で課されるプロジェクトワーク (予習、ケーススタ

ディと発表、最終報告書の提出)も「非常にためになった」と話す。

与えられた課題に関する予備検討と予習報告書の提出した後、大阪大学でケーススタディ(3日間の集合研修。グループ討議と口頭発表)に参加した。

「圧力容器を一つ製造する想定で勉強する中で設計に関する課題に直面した。設計に際して板厚を計算する経験などほとんどなく、関連する法規の本もしっかり読んだ」

太田さんはIWEコースを受験したメンバーとのディスカッションは楽しい思い出と振り返り「有り難いチャンスだった」と話した。

【注】日揮プラントック株式会社は2013年7月1日付で日揮プラントソリューション株式会社と合併し、日揮プラントイノベーション株式会社に社名を変更した。(本文は2013年4月26日付取材に基づく)